

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 602 事業名 消防水利の開発及び保全に関する事業

[事業基本情報]

分野別目標	1	安心して、安全に暮らせるまち
政策	2	消防・救急救助体制の充実
施策	2	消防力の充実
取組	4	消防水利の整備

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		消防費
	項		消防費
	目		消防費
	大事業		消防事業
事項		消防水利の開発及び保全に関する事業	

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	警防課	大浦 正男 (428-0119)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実	○	美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	消防水利を常に使用可能な状態に維持管理することで、市民の生命、身体、財産を火災から守ることを目的とします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防水利保全に必要な消耗品の購入</li> <li>防火水槽の修繕</li> <li>消防水利施設の焼付表示</li> <li>消火栓の新設及び維持管理の負担金</li> </ul>				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		公設消火栓37基新設 公設防火水槽(40㎡) 8基新設 公設防火水槽(20㎡) 23基新設 私設防火水槽(40㎡) 2基新設 私設防火水槽(20㎡) 8基新設	公設消火栓38基新設 公設防火水槽(40㎡) 13基新設 公設防火水槽(20㎡) 11基新設 私設防火水槽(40㎡) 6基新設 私設防火水槽(20㎡) 15基新設	公設消火栓 35基新設 公設防火水槽(40㎡) 22基新設 公設防火水槽(20㎡) 11基新設 私設防火水槽(40㎡) 9基新設 私設防火水槽(20㎡) 7基新設		

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	29,413	26,195	22,399	22,390	23,639	23,631	22,701		23,639		
	伸び率 (%)	-	-	-23.8%		5.5%		-4.0%		4.1%		
	人件費	常勤職員	11,176	9,627	12,147	5,708	5,273	5,230	4,742		5,233	
		非常勤職員	53				75	75	95		75	
		小計	11,229	9,627	12,147	5,708	5,348	5,305	4,837		5,308	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他								750				
一般財源(税等)	29,413	26,195	22,399	22,390	23,639	23,631	21,951		22,399			
所要人数	常勤職員	1.46	1.26	1.59	0.76	0.7	0.69	0.63		0.69		
	非常勤職員	0.04				0.04	0.04	0.04		0.04		

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	消防水利(消火栓、防火水槽)の新設数				年度目標値				
					実績値	78	83	84	
	単位	基	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	消防水利の充足率				年度目標値	100	100	100	100
					実績値	87.8	88.3	88.8	
	単位	%	全体目標値	100	全体目標達成度	88.3%	88.3%	88.8%	
					年度別達成度	87.8%	88.3%	88.8%	
					年度目標値				
					実績値				
単位		全体目標値		全体目標達成度					
				年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)  <b>A</b>
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	市民の生命、身体、財産を火災から守るため、消防水利を常に使用可能な状態に維持管理していかなければなりません。
「見直し」 「改善」案  ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	